

令和7年度 小平市立小平第八小学校 学校評価報告書

学校教育目標 学習指導要領に基づき、東京都教育委員会の教育目標及び基本方針、小平市教育振興基本計画を踏まえて教育課程を実施する。「確かな学力、豊かな人間性、健康な体」を基盤とし、コミュニティ・スクールとして、保護者、地域が一体となった学校づくりを目指す。地域に根ざした教育活動を推進することによって、「思いやりがあり心豊かな子」「すすんで社会に貢献しようとする子」「自ら学ぶ創造力豊かな子」「健康でたくましい子」の育成を目指し、教育目標を設定する。◎思いやりのある子 ○よく働く子 ◎工夫する子 ○元気な子

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ○児童が登校を楽しみにする学校 ○保護者や地域社会に信頼され、応援していただける学校
- 【目指す児童・生徒像】 ◎思いやりのある子 ○よく働く子 ◎工夫する子 ○元気な子
- 【目指す教員像】 ○それぞれの立場でよさを発揮し活躍する教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

学校評価の各項目において保護者・地域の方から、概ね肯定的な回答を得ることができた。各学年の発達段階に応じた、児童発案の活動を多く取り入れ、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。今年度は研究発表会がある。研究主題である、「夢を描き、追い求め、実現する児童」の育成に向けて、学校・地域・家庭の連携を大切にしながら、コミュニティ・スクールとしての地域力の活用を目指していく。

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 指標に基づく成果・課題・対策 | 第2回評価 | | 学校関係者評価 | 指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策 |
|-------------|--|-------|------|--|-------|------|---|---|
| | | 取組指標 | 成果指標 | | 取組指標 | 成果指標 | | |
| 学力向上 | 授業・モジュール・家庭学習等で繰り返し練習させ、小テスト・計算名人検定・東京ペーシックドリル等を行い、漢字や基本的な計算を習熟させる。 | 3 | 3 | <成果>自分自身に合う学習方法で取り組んできたことによって、漢字学習に対する意識が変わり、意欲的な姿勢を見せる児童が増えた。 <課題>新出漢字が多くなり、追いつかない児童がいる。 →発達段階や個に応じた学習方法を検討し、主体的な学習へとつなげていくようにする。 | 3 | 4 | <小学校で学ぶ算数は、中学校及び高校での学習に肝いなる基礎だが、苦戦している児童が少なくない(3~6年生)。そのため、個別の丁寧な指導が必要で、要員(教員、補助員)の充実が望まれる。 ・漢字の習得ができていない児童が少なくない。習得できているのかいないのか、高学年でも平仮名で書く児童も目に付く。書き順が正しくない児童が多い。 | <成果>基礎・基本の学習の定着を目指し、最も効果的な教材を選択したり、モジュールの時間を有効に活用したりすることで、習熟が図れた。 <課題>家庭学習を取り組ませているが、確実な定着とまではいかない。 →授業時間の中で反復練習を行う時間を設ける。また、家庭学習について、継続的に取り組めるようにする。 |
| | 一人1台の学習者用端末を活用して、個に応じた指導を工夫する。 | 3 | 3 | <成果>学習者用端末を、学習において用いることで、多くの児童がタイピング入力できるようになった。また、学習をまとめる力がついた。 <課題>低学年であっても積極的にタブレットを活用する機会を設けたい。 →発達段階に応じたICT機器の基礎的な使用方法を身に付けさせる。 | 3 | 4 | <成果>ロイロノートを使って意見交換ができるようになった。 <課題>個に応じた使用はできていない。 →デジタルドリルの児童別結果等で個々の理解度を把握することができる。 ・教員がしっかりと見ていないと、違うことに取り組む児童がいる。 →八小生活スタンダードを改めて周知する。 | <成果>ロイロノートを使って意見交換ができるようになった。 <課題>個に応じた使用はできていない。 →デジタルドリルの児童別結果等で個々の理解度を把握することができる。 ・教員がしっかりと見ていないと、違うことに取り組む児童がいる。 →八小生活スタンダードを改めて周知する。 |
| 健全育成 | 毎月行われる校内委員会やいじめ対策委員会を中心に、組織としていじめ防止の取組を推進し、未然防止・早期発見・迅速かつ丁寧な対応に努める。 | 4 | 4 | <成果>・校内委員会で挙がった児童を気にかけて見守ることができた。 ・交換授業を行うことで、同じ学年の児童の様子を把握し、未然防止や早期発見につながっている。 | 4 | 4 | <成果>学年で困ったことを話し、どのように対応するのが良いのかを考え、複数で対応することができた。 <課題>未然防止ができるよう行動するべきだった。主に席席の配置や教師からの声掛けなど、丁寧に行うべきであった。 →いじめに対しては、未然防止、早期対応ができるように学年会や生活指導などで情報共有をし、組織的に対応していく。 | <成果>学年で困ったことを話し、どのように対応するのが良いのかを考え、複数で対応することができた。 <課題>未然防止ができるよう行動するべきだった。主に席席の配置や教師からの声掛けなど、丁寧に行うべきであった。 →いじめに対しては、未然防止、早期対応ができるように学年会や生活指導などで情報共有をし、組織的に対応していく。 |
| | 「挨拶・思いやり・清掃・廊下歩行・外遊び」に関する月目標を設定し、全教員が一貫した指導を行う。 | 4 | 3 | <課題>・いろいろな学年の児童が廊下を走っている。・中休み、外遊びができないときの室内での過ごし方がよくない。・児童自らすすんで挨拶することができていない。→月目標は、全教員が一貫した指導をしていく。学年の実態に合わせて指導するために、学年で話題にしていく。 | 3 | 4 | ・しつけ教育のうち、挨拶は、ここ数か月ではかなりできるようになってきたと感じる。6年生の率先垂範で全校児童に定着するのを期待したい。思いやりは申し分ない。清掃はもう一歩である。廊下歩行は西校舎への渡り廊下と職員玄関先の北校舎への渡り廊下は特に走る児童が多い。 | <成果>毎週、朝会での発信により週初めは児童が目標を意識している。 <課題>・3つの月目標を意識するのが難しかった。 →月目標を精選し、委員会活動と結び付け、児童発信の取組ができるようにする。 ・学校全体で「八小の約束」を周知・徹底できていないと感じている。 →生活指導部会、学年会等で実態、指導状況など情報交換していく。 |
| キャリア教育 | 生活科・総合的な学習の時間や特別活動等を核とした授業や日常生活において、学年に応じたキャリア教育の実践を行う。 | 4 | 4 | <成果>他学年と積極的に関わったり、地域に関心をもったりすることができた。 <課題>外部と連携した活動は、教員にとって持続可能かどうかを考える必要がある。 →負担を分散できる工夫したり精査したりして、外部連携を減らしていくが、全く無くならないように気を付けた。 | 4 | 4 | ・市の研究指定校として研究発表に取り組んだこともあり、大きな成果を上げたと思う。方、先生、児童に相当な負担があったことが窺える。働き方改革に逆行しないよう、また他の教科へのしわ寄せが無いようにしたい。 ・外部と連携した活動は皆伸びし過ぎず、持続可能なものにした。 | <成果>・児童が主体的に取り組めるようになった。 ・総合的な学習の時間を中心に進めることができた。 |
| | 全学年で発達年齢に応じた児童発案の活動を実施する。 | 4 | 4 | <成果>今までの積み重ねもあり、自分たちで考え行動しようとする児童がたくさんいる。 <課題>行事の精選は必要なことだと思うが、「キャリア教育」の視点から効果が上げられない。 →限られた学校生活での時間の中で、異学年交流や児童発案の活動を組み入れていく。 | 4 | 4 | <成果>児童が出した案を学級で練りながら実行している。 <課題>学級会を多く行う予定だったができていない。 →学級活動の年間指導計画を参考に、年間を通してバランスよく学級会を行えるように工夫する。 | <成果>児童が出した案を学級で練りながら実行している。 <課題>学級会を多く行う予定だったができていない。 →学級活動の年間指導計画を参考に、年間を通してバランスよく学級会を行えるように工夫する。 |
| コミュニティ・スクール | ホームページの更新を積極的にを行い、教育活動の情報発信に努める。 ※コミュニティだよりは月1回発行、必要に応じて地域教育コーディネーターだよりを発行する。 | 1 | 1 | <成果>学年で仕事を分担することで、月2回を目安にアップできている。 <課題>発信が少ない学年がある。また、写真の配慮が欠けていることに心配を感じる。 →学年によって差が生じないように担当から各学年へ声掛けを適宜行う。写真に関するルールを検討し、周知する。 | 1 | 4 | ・ホームページでの情報発信は、学年によるばらつきはあるものの、学校の状況がよりよく分かるようになった。 ・方策に掲げている「学校経営協議会に全教員が輪番で参加する」ことは、全く出来ていない。現状は、夏休み研修会と9月、1月の交流会に、全教員が参加し、それぞれ40分ほどの交流の場を設けていることとする。 ・地域人材の活用は、学校経営協議会に提案いただき、各委員の人的つながりを生かして対応が可能かどうか検討したい。 | <成果>1年生は、頻度多く発信している。 <課題>HPの更新方法が分からない。 →年に1回、年度初めに更新の仕方について講習を行う。 |
| | 全教員が輪番で学校経営協議会に参加し、授業で積極的に地域人材の活用を図る。 | 4 | 4 | <成果>農家さんや地域のお店の方との交流は、非常に有効であった。 <課題>1学期は地域人材の活用を図ることができなかった。 →地域教育コーディネーターの協力を得ながら地域の方々と連携していく。 | 4 | 3 | <成果>・図書ボラや花ボラなどの活動をしたり、見守りの人を招いて話を聞くなどができた。 ・今後、どうもろこしの植木屋やわんわん・ノットロールとの触れ合いを予定している。地域の方々との関わりを深めながら、学ぶことができた。 <課題>教科によっては、地域人材の活用は難しい。 | <成果>・図書ボラや花ボラなどの活動をしたり、見守りの人を招いて話を聞くなどができた。 ・今後、どうもろこしの植木屋やわんわん・ノットロールとの触れ合いを予定している。地域の方々との関わりを深めながら、学ぶことができた。 <課題>教科によっては、地域人材の活用は難しい。 |
| 業務改善 | 日々の業務の精査を行い、事務作業についてはSSSとの連携を図りながら行う。 | 3 | 3 | <成果>・SSSと連携を図ることで、日々の業務の精査ができたと思う。担任としても、校務分掌としても本当にありがたく、今後も連携をしていきたい。・会議等の時間が少ないことで授業準備の時間を十分に取ることができている。 | 4 | 4 | ・SSSとの連携で成果が上がっていること。継続したい。 ・定期的に業務の見直しを行い、増えた業務量に見合った量を合理化し、業務量を適正に保ちたい。 | <成果>授業の準備補助から掲示など、様々な面で支えていただき本当にありがたいです。 |